

敬子の躰け浣腸

敬子は短大の同級会の集まりがあり、久しぶりに銀座まで出かけました。

会が終わった後で数人の親しいお友達とお茶をしながらのおしゃべりで、楽しい時間を過ごしました。

皆さんそれぞれ結婚していて、ご夫婦の熱いお惚気話して盛り上がったのです。

敬子は卒業後は家事の手伝いをしていて、25歳の時にお見合いで結婚しましたが、早いものでもう十五年が経とうとしています。

お友達の皆さんは卒業してすぐに結婚なさった方が多いので、もう大きなお子さんを持つ方もおります。

そろそろ子育ても終わりに近づいてきて、次の目的を持つとうしているお友達には、これから何を始めるのだろうかど、とても興味をもちました。

希望は専業主婦

私は結婚して専業主婦になること、それが女学校時代から夢でしたから、趣味のこと以外はあまり仕事の夢などを持つたことはありません。

愛する人の子供を産んで、家庭を切り盛りし、実家の母の様に主人の家をしっかりと守ることが、私の人生の目的なのです。

これからも主人に愛される可愛い妻であり、素敵な主婦で居られるようにと、努力している毎日です。

主婦の日常は、季節毎に準備することが色々とあり、忙しい毎日を過ごしています。

主人の妻としてのお付き合いもあるので、そのことも疎かに出来ません。

主人の体面にも関わりますから、美容にも気を配り、肥つて醜くならないようにエステにも行き、お肌の手入れもして、主人の妻としての容姿にも気をつける毎日です。

一番大事なことは、主人にいつまでも愛されるように、綺麗で可愛い貞淑な奥さんでいることだと思えます。

女の魅力は、特に中年からの女に大事なことは、羞恥心を忘れないことだと気をつけています。

結婚生活が永くなって羞恥心が無くなると、服装も構わなくなり、身体全体がだらしが無く見えて、淑やかなお色気が無くなつてしまいます。

私も結婚して十五年も経つと、主婦の立場に安住してしまい、いつのまにか気が抜けて、気がつくとならしく過ごしてしまうことが時々あるのです。

この前、主人がお休みの日に、暖かい午後のお庭でお三時のお茶をしていた時の事でした。

暖かい日差しの中で、庭のカウチで寛いでいる時、主人に抱きしめられ熱いキッスをされ、その上スカートに手を入れられてしまいました。

お庭なので恥ずかしくて逃げようとしたのですが、とうとうパンティを取られてしまいました。

その下着はまだ朝から履き替えていなかったもので、とても汚してしまっていたのです。

「ああ！ ごめんなさい！ それダメーン！ 見ないでーッ！ この頃気が緩んでしまつて！

何だか体調が少し悪くて…！ アアッ！ イヤ！ かえしてーッ！ ダメーッ！」

色々と言いつつ訳しましたが、主人にパンティを取り上げられて、ひどく汚れたクロッチをみられてしまったのです。

いつもは気をつけているのに、たまたま中年主婦の気の緩みを、主人に見つけられてしまったのです。

これは女としての羞恥心が無くなつてきた証拠です。

こんな時は主人にお置ききされて、新婚の頃のあの恥じらいの気持ち、羞恥心を思い出させてもらわなければなりません。

主婦の躰け直し

「敬子！ お前、毎朝下着取り替えて無いの？ 綺麗好きのお前らしくないじゃないか？

これ匂つてるよッ！ ちゃんと毎日通じがあるのか？

もう中年になつたんだから、便秘に気をつけないと、ぶくぶくと肥えてきて醜くなつてしまうぞ！」

「あなた！ わたし…この頃なんだか気が緩んでるの！ 自分でも気にしていたのよ！

昔の私に戻りたいのッ、あなたッ…！ お置ききしてくださいッ！

貴方の妻として可愛い奥さんになるように、敬子の躰け直しをしてくださいーッ！」

主人にはその汚れたパンティをまた履かされて、お庭のカウチの上でお股を広げさせられ、汚したクロッチを見られながら、お茶の時間が済むまで放置のお仕置をされました。

それは本当に恥ずかしくて、主人の前にお股を広げ、滲みで汚れたパンティを見られていると、その恥ずかしさに感じてしまい、一層パンティを濡らす事になり、羞恥の心をしっかりと植え付けられて、それはとても恥ずかしいお仕置きになったのです。

四十路の中年と言われる歳に近付くと体調も変わってきて、お通じがつかずにお便秘する事が多くなってきました。

今週も未だ一度もお通じがありません。一週間もお便秘をお腹に溜めているので、下腹が大分膨れています。こんなお便秘の身体で抱かれるのは、主人に対して失礼だと思つていますが、お便秘のことは恥ずかしくて、まだ言えずにいます。

「あなたッ！ もう許して！ もう気をつけます！ ごめんなさい！」

これからは毎日取り替えて清潔にしますから…許して…ッ！ もう！ 恥ずかしくつて…！ 許して！」

「敬子！ お前さつき体調が悪いと言つてたけど、どうなんだ？ 生理の事なのか？」

それとも通じがなくて便秘でもしてるのか？」

とうとう主人にお便秘の事を言わなければならぬ時が来てしまいました。

お便秘調べ

「あなた、わたし今お便秘してるの！ この頃お通じが無くてお便秘する事が多くなってきたの！」

こんな事、お通じの事なんて…聞かないでください！ 恥ずかしくつてッ！ あなたたらッ、もうイヤッ！」

そう言っているうちに、主人に捕まえられて膝の上にお尻を高くして載せられて汚れたパンティを下され、お尻の重なりを開けられ、奥の肛門にミルクティーに濡らした主人の人差し指を入れられて、お便秘のお調べをされてしまったのです。

「ああッ！ あなたッ！ イヤンッ！ ダメンッ！ お便秘酷いのに、ああッ！」

プップッ！

肛門に指を入れられたので、オナラを漏らしてしまい、それは本当に恥ずかしいお調べだったので。

主人にお尻をヒシヤッ！と叩かれて、

「敬子！ 便秘して何日経つてるの？ 中で便が固まっているよ！ これじゃ普通には通じがこないだろう？」

このままじゃ痔になって醜い肛門になってしまうよ！ 下剤や浣腸を試さなかったのか？！」

「あゝ！ あなた！ そんなところにお指入れて！ お浣腸何度もしたのよ！

お薬だけ出てしまつてダメだったの…！ どうしたら… もう… あなたツ！ お浣腸してくださいーッ！」

主人は、直ぐに寝室にお浣腸の用意をする様にと指示をして、洗面所に手を洗いに行つてしまいました。

私は寝室の布団にお漏らした時の用心に、防水布を重ねて敷き、イチジク浣腸を薬箱から出して、ワセリンやティッシュや綿棒などをお盆に用意してお布団の横にお浣腸の準備をして置きました。

羞恥のお浣腸姿

私はお風呂場でシャワーを使い、甘い良い匂いの石鹸で前とお尻を丁寧に洗い、お浣腸で出る恥ずかしい匂いを出来るだけ消すようにように、念入りに準備しました。

お化粧を直して新しいパンティをつけて寝室に行くと、主人はタバコを吸いながら私を待つていました。

主人に促されて、お布団に寝かされ正常位の時のように両股を広げて上に挙げて、両膝の裏で手を組む姿勢にされたのです。

主人にこの形で抱かれることはありませんが、この姿勢でのお浣腸は初めてなので、とても恥ずかしく感じます。その上に、肛門が上を向くようにお尻の下に二つ折の座布団を入れられてしまいました。

これでお股を隠す事ができなくなつて、私の薄い淫毛に覆われた膨よかな淫部とその下に見えるおちよぼな肛門は丸見えに晒されてしまったのです。

セックスの時は、主人が入ってくるまでのことなので、お股を見られても恥ずかしいとは感じませんが、お浣腸の間はずっとそこを見られていると思うと、本当にこの姿は恥ずかしく、もし淫部を動かしてしまつたり、愛液が出て陰唇を濡らす処を見られると思うと、もうそれだけで恥ずかしくなつて、緊張している淫部に膣液が滲み出して濡れてきてしまうのです。

これから主人の手で、この姿勢のまま私の腭け直しのためのお浣腸をさせていただきます。

腭のお浣腸

今から私は、お浣腸されて羞恥心を忘れた主婦の腭け直しをされるのです。

これからはもつと恥ずかしい時間を過ごす事になります。

主人には抱え上げたお尻の双丘を開けられて奥の肛門を出され、ベビーオイルを付けた指で丁寧に肛門マッサージをされました。

それだけでも恥ずかしいのに主人の指に感じてしまい、充血し膨れた陰唇からは膣液が滲み出してしまいました。

主人は徐ろに指をティッシュで拭いた後、イチジク浣腸を持つて柔らかく緩んだ肛門に優しく差し込みました。「あなたッ！ アンツ！ イヤー！」

敬子はイチジク浣腸の嘴を咥えて肛門を締め、ブルツと身体を震わせたのです。

一つを潰し終わると続けて二つものイチジクをお浣腸されたのです。

敬子はそのお仕置き辛さ恥ずかしさに悶え、主人にその一部始終を見られている妻の恥ずかしさを十分に感じさせられています。

「ああッ！ あなたッ！ イヤッ！ 恥ずかしいの！ そんなに見ないでくださいッ！ くるしい！」

か…可愛い奥さんになりますッ！ もうッ！ 許してッ！ イヤッ、漏れそうッ！ アアッ！」

お尻を振りながら排便の我慢をさせられて、女の羞恥心が身体の芯に沁みるように、女らしい恥じらいが日常の仕草や立ち振る舞いに感じられる様に、敬子は今妻としての躰け直しのお浣腸をされ、押さえられたお尻を震わせ、鳴きながらお便所への許しを求めています。

「アアンツ！ もうダメンツ！ 許してッ！ あなたンツ！ 漏れちゃうッ！ アアッ！ イヤッ！」

ブーツビビーツ！ ピツ！ ビューツ！ ぷツ！

「イヤッ！」

ビビビーツ…！

敬子はお便所までの我慢ができずに、肛門を押さえている主人の手を逃れて、沢山の浣腸便をお布団の上にもりもりと排泄し、同時に漏らしたオシッコと共に茶色の大きな地図を寝室の布団の上に描いてしまいました。立ちこめた匂いの恥ずかしさに泣き崩れる主婦敬子、涙眼で主人を見めながら

「敬子を嫌いにならないで！ あなたッ！ 淑やかで可愛い奥さんになります！ あなたッ！

愛してるのッ！」

淑やかな可愛い妻になることを、緩み汚れた肛門を見せ、淫部を濡らしながら、涙と共に主人に誓ったのでした。

躰沆腸の成果

敬子の羞恥のお仕置きと躰沆腸は、予想以上の成果を収めました。

お便所での女の秘密を、寢室の布団の上で主人に見せてしまった敬子は、その日から中年の淑やかなお色気を匂わせる女になりました。

新婚の頃に戻った様に、主人と目が合うと顔を赤くして俯いてしまいます。

朝晩の羞恥を含んだ妻の立ち振る舞いを目にして、旦那様はとても満足げに、秋の日差しが注ぐ庭を眺めています。

一方敬子は、主人に求めたお仕置きと躰沆腸の成果なのか、15年の結婚生活で自然に溜まっていた日常のストレスが消えていきました。

寢室のお沆腸では、女のお腹の中まで主人に見られてしまった事で、改めて本当の夫婦になれた気持ちにもなり、淑やかな羞恥心を持った女に生まれ変わったと、心から感じる事ができたのです。